

# 多面的な情報発信（展示会や刊行物における情報発信）

- 部分執筆やデータ提供等により、書籍や雑誌などの出版物に特集記事等を掲載して貰うことで、幅広く多様な消費者に米や米食の魅力を発信。
- 一般展示会へのブース出展、省内「消費者の部屋」展示等により、消費者と直接交流しつつ米や米食の魅力を発信。

## 展示会出展、「消費者の部屋」での展示、等



『お米の魅力に迫る!』 2023年9月4～8日 消費者の部屋  
パネルや動画を使って米や米粉の魅力を紹介、製品展示やレシピ紹介を実施



『GOOD LIFE フェア 2023』  
2023年9月1～3日 東京ビッグサイト  
水田の多面的機能、全国おにぎりMAP等により消費者にお米の魅力を紹介

## 出版物等への部分執筆、データ提供等



発行：2023年4月12日  
日本食糧新聞社



発行：2023年6月7日  
農林水産省広報室



発行：2023年8月1日  
商経アドバイス社



発行：2023年9月25日  
NHK出版社



出版：2023年11月号  
「月刊コロムブス」  
東方通信社

# ○生産コスト低減に向けた具体的な取組

○ 担い手への農地集積・集約を加速化するとともに大規模経営に適合した省力栽培技術・品種の開発・導入を進め、産業界の努力も反映して農機具費等の生産資材費の低減を推進。

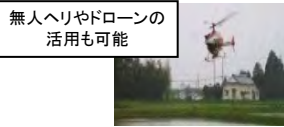
## 省力栽培技術の導入

### 直播栽培

育苗・田植えを省略。  
直播栽培に適した水管理と雑草管理ができれば、労力削減とコスト低減につながる。  
コーティング無しの直播技術も発展。



鉄コーティング種子



無人ヘリやドローンの活用も可能

### スマート農業技術の活用

(例)  
営農管理システムの導入  
→作業のムダを見つけて手順を改善。  
水管理システム  
→水管理の見回りを削減。  
ドローンの活用  
→農薬・肥料散布の労力軽減。



### 高密度播種育苗栽培

育苗箱数・床土使用量を減らせるため、資材費の低減が可能。  
田植機への苗供給も少なく省力的。



### 肥料の節約

- 育苗箱全量施肥：緩効性肥料を育苗箱に施用することで、追肥を省略でき、肥料減・省力化を図る。
- 流し込み施肥：肥料を水口から流し込むことで、追肥作業を省力化。

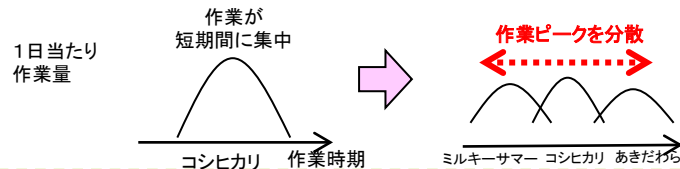
## 大規模経営に適合した品種

### 多収品種

多収品種による増収で、60kg当たりのコストを低減。  
(品種例)  
・つきあかり  
・にじのきらめき

### 作期の異なる品種の組み合わせ

作期を分散することで、同じ人数で作付を拡大でき、機械稼働率も向上



## 担い手への農地集積・集約等

- 2023年までに全農地面積の8割を担い手に集積
  - ・分散錯圃の解消
  - ・農地の大区画化、汎用化

## 生産資材費の低減

### 農業機械の低価格化

- ・全農では、農業者のニーズを踏まえて機能を絞り込んだ仕様を決定し、最も高い要求を満たした農機メーカーから農機を共同購入。
- ・基本性能を絞った海外向けモデルの国内展開



### 肥料コストの低減

- ・土壌診断に基づく施肥量の適正化（肥料の自家配合等）、精密可変施肥
- ・化学肥料から鶏糞等への転換
- ・共同購入、大口購入による価格交渉
- ・フレキシブルコンテナの利用（機械化による省力化等）



### 合理的な農薬使用

- ・発生予察による効果的かつ効率的防除
- ・輪作体系や抵抗性品種の導入等の多様な手法を組み合わせた防除（IPM）  
⇒ 化学農薬使用量抑制

### 未利用資源の活用

- ・鶏糞焼却灰等の利用



○ 生産コスト削減に活用可能な技術をまとめた「担い手農家の経営革新に資する稲作技術カタログ」を作成し、公開しています。  
[http://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/info/inasaku\\_catalog.html](http://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/info/inasaku_catalog.html)（「稲作技術カタログ」で検索！）

## <対策のポイント>

米の需要減により米価が低迷する一方、肥料等の生産資材価格の高騰等によって、稲作農業は大変厳しい状況に置かれています。今後、輸出等の新たな需要への的確な対応を通じて需要拡大を図りつつ、農業者の所得を確保し、稲作農業の体質を強化するため、米の超低コスト生産、米の付加価値向上・流通合理化モデル創出に向け、加速させる環境の整備及び取組を支援します。

## <事業目標>

- 担い手の米生産コスト (9,600円/60kg)
- 米の需要拡大 (消費量51kg/年・人 [令和12年度])

## <事業の内容>

### 1. 米の超低コスト生産支援

米の輸出拡大等に向けて、農業者や地方自治体、農業団体など地域の関係者が連携して、大幅なコスト低減を目指す産地に対して、**コスト分析やコスト低減に係る取組状況の把握、課題抽出、必要となる技術実証、人材育成等の取組を総合的に支援**します。

(補助率：定額 (上限840万円/コンソーシアム))

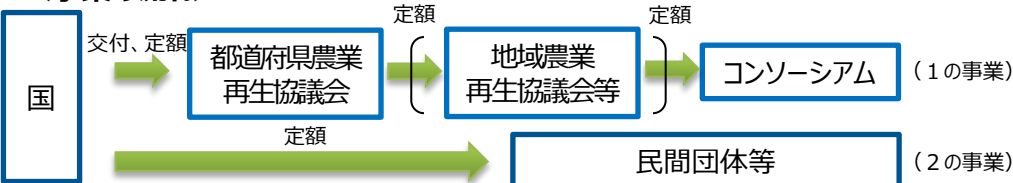
- ※ 1 事業実施期間は最長3年間とします。
- ※ 2 1年目及び2年目の年度末に各産地の取組状況や成果について中間評価を行い、翌年度の支援対象産地を決定します。

### 2. 米の付加価値向上・流通合理化支援

多様な消費者・実需者ニーズに対応するため、**生産から消費に至るまでの情報の連携 (スマート・オコメ・チェーン) による米の付加価値向上・流通合理化モデル創出に向けた取組等を支援**します。

(補助率：定額)

## <事業の流れ>



## <事業イメージ>

### 米の超低コスト生産支援



### <超低コスト生産に向けた取組>

- 産地や担い手の生産コストの現状把握・分析
- コスト低減に係る取組状況の把握、課題の抽出
- コスト削減の技術等実証、人材育成
- 取組成果の検証と改善策の検討

### 米の付加価値向上・流通合理化支援



スマート・オコメ・チェーンを活用した、米の付加価値向上・流通合理化のモデル創出に向けた関係者によるデータ連携の実証

【お問い合わせ先】 農産局穀物課  
 1の事業：03-6744-2108  
 2の事業：03-6744-2184